

「線虫一筋20年」

広津氏 研究者から起業家に

1面から続く

「大学4年生の時から線虫一筋、20年です」

HIROTSUバイオサイエンス社長の広津亮氏は、起業する前は生物学的研究者だった。東

京大学理学部の4年生だった1994年、研究室

から「向こうでは線虫ってのが盛り上がってるよ」

のアメリカ帰りの教官から「向こうでは線虫ってのが盛り上がってるよ」

止めた論文だった。

博士課程2年目の時、広津氏の書いた論文が世界最高峰の科学誌「ネイチャー」に掲載された。

その論文こそが、線虫がおいをかき分けていることを分子レベルで突き

線虫の神経伝達などを調べる研究者だった広津氏を変えたのが、「がん探



ひろつ・たかあき 72年、山口生まれ。95年東京大理学部卒、1年間の企業勤務を経て01年東大大学院理学系研究科で博士課程修了。その後京都大、九州大などで研究員。16年にHIROTSUバイオサイエンスを起業、代表取締役に就任。

線虫の神経伝達などを調べる研究者だった広津氏を変えたのが、「がん探

当時、がん探知犬の論文は世にたくさん出ていたが、線虫ががんを見分けるなどという論文はもろくなかった。犬がで

起業するつもりはなかったという。だが技術を普及させるには自分が先頭に立たないと、どの思い

で16年、起業を決断した。昨年9月には助教を務めた九州大学もやめた。線虫の検査が実用化して事業に余裕が出てきたら、若手研究者を支援する取り組みを始めたところ、線虫はものの見事に期待に応えた。

「社会のみなさんから最初、広津氏は自身が研究費をもらって、若手が基礎研究をするサイクルを回せないか。そのためにベンチャーが機能す